

# 二重経済における失業均衡：市場の連結と異質な労働者

高羅ひとみ \*

平成 21 年 1 月 22 日

## 概要

インドをはじめとする途上国では次のような特徴があるとされている。つまり、1. 農村では低賃金であるが、豊富な労働力を有している。そして、2. 農村から高賃金の都市への労働力の流入がある。しかし、3. 都市では失業があり、必ずしも都市に流入した労働者が雇用されるとは限らない。さらに、4. 農村では低賃金とともに、市場の連結と呼ばれる現象が報告されている。これらの特徴をもつ経済を一般均衡の枠組みで表現することが本論文の目的である。これは大変に困難な課題である。なぜなら、「不均衡の一つである都市の失業」を「一般均衡論的に扱うこと」は、一見して、二律背反の要求にみえるからである。実際、これまで失業を説明したモデルにおいて、均衡の存在証明がなされていても完全雇用状態であるか、あるいは存在証明は与えられていないということがしばしばである。我々はこの難問を次のように解決する。労働者は都市には失業があることを知っており、その率を知った上で期待効用に従って賃金の高い都市に行くかどうかを決めるとする。また、農村には土地所有者がいて、農村の賃金率と利子率の決定を通じて、農村での労働人口の確保をすと想定する。均衡はあらかじめ知られている失業率が結果として現れる失業率と一致することによって描かれる。したがって、都市労働市場の均衡は就業者数の期待値と労働需要が一致することによって記述される。本論文の主たる結論は (i) [失業均衡の存在] 都市での失業を含む均衡が存在すること、(ii) [比較静学] 農村から都市への資本の供給が増加すれば、また労働者間の生産効率の差が小さくなれば、失業率は下落すること、である。

*JEL classification:* J64; Q12; O12

*Keywords:* Urban Unemployment; Labor Migration; Labor Heterogeneity; Interlinkage; Existence of Equilibrium; General Equilibrium Model

---

\*657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 2-1 神戸大学大学院経済学研究科博士課程後期課程。E mail: hitomik-oura@hotmail.com